

地域におけるネットワーク構築の実践

～コミュニティソーシャルワーカーの取り組み～

当法人では、茨木市の委託を受けコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を2名配置している。CSWは地域の様々な社会資源の「つなぎ役」となり、高齢者・障がい者、ひとり親家庭など要援護者を支えるセーフティネット体制作りに取り組んでいる。

大阪府

社会福祉法人

慶徳会

〒567-0035 大阪府茨木市見付山1-10-25
TEL：072-625-9801 FAX：072-627-0989

○法人設立年／昭和27年

○法人実施事業

①経営施設合計 13施設

②経営施設・事業

特別養護老人ホーム…2、老人デイサービスセンター…3、児童養護施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム・有料老人ホーム・認知症対応型グループホーム、小規模多機能型施設、障害者短期入所施設、障害者デイサービスセンター…各1
ケアプランセンター…4、ヘルパーステーション…2、在宅介護支援センター…2、地域包括支援センター…1

○法人の理念・経営方針

理念：お互いに生かされていることを喜び感謝するとともに、時代に即応した福祉を希求します。

経営方針：常にご利用者の皆さんの心のよりどころを大切に、関係機関・団体と緊密な連携を保ちながら地域社会の福祉の貢献に努めます。

○取り組みの法人での位置づけ等

セーフティネットワーク事業の推進の一環として実施している。

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

- ・高齢者総合施設常「清の里」
- ・在宅サービス供給ステーション「静華苑」

【施設種別及び利用定員】

在宅介護支援センター

○活動内容

◇活動開始年月 平成18年4月

◇活動の対象者 担当している豊川・郡山・彩都西・春日丘・郡小学校区を中心とした地域住民

◇活動の頻度・時間

相談受付：基本的に平日9：00～18：00

健康福祉セーフティネットワーク会議：

1回／1ヵ月～2ヵ月 1時間半

出張相談会：1回／2ヵ月 5時間（スーパー）

1回／1ヵ月 1時間半（老人福祉センター）

活動実施の背景、実施にいたった理由

近年、高齢者の増加、離婚率の上昇や失業者の増加などが進む中、新たな社会問題として自殺・ホームレス・虐待・家庭内暴力・ひきこもり・孤独死等、従来の福祉行政の谷間に入ってしまう様々な課題が表れている。

一方、近年の核家族化・少子高齢化社会の進展等を背景に、家庭や地域の相互扶助機能が大きく低下しているため、地域では①「困りごとを抱えた家庭を発見する」、②「発見した家庭をネットワークで支援し孤立させない」、という以前は当たり前のように近隣住民同士で行っていたことが難しくなっている。要援護者の発見・支援がスムーズに行え、誰もが安心して暮せる町にしていくためには、自然発生的な住民同士の助け合いだけに任せるのではなく、何らかの仕組みが必要と言えるのが現代社会であろう。

こうした中、茨木市では、社会福祉法人やNPOなど市内14事業所にコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）の配置を委託している。CSWは様々な活動を通じて小学校区単位でのセーフティネット体制作りに取り組んでいる。

実施内容

①セーフティネットワーク会議

小学校区の民生児童委員・福祉委員・社会福祉協議会・地域包括支援センター（地域包括）・市職員など地域の福祉に携わる人や機関が集まり、CSWが事務局となって、個別ケースの検討や、個別課題から抽出された地域課題に関する勉強会や検討を実施している。地域から発見された個別ケースについては、例えば、「ゴミ屋敷」やセルフネグレクト（自己放任）等の制度に結び付けることが難しい事例は、先ずCSWが主な支援者としてネットワークを構築しながら動いたり、複合的な課題のある家庭等の既存の支援者同士の連携が不十分なケースの調整役等の役割を果たしている。

②出張相談会

潜在的ニーズの発見や、身近に相談できる人・窓口がある

ことを周知するために、趣旨を理解し協力を得られた大型スーパーや老人福祉センター等で定期的に開催している。複数のCSW・地域包括支援センターが共催している。

③その他

府立高校や地区福祉委員会での認知症サポーター養成講座の開催（市・社協・地域包括・複数のCSWなどが連携）等

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

取組を始めて4年目となり地域住民や関係者から、「これまでひとりで抱えて不安だったけれど、今は皆で支えられるから安心」、「身近で相談できて嬉しい」、「〇さんの支援が△さんの支援の参考になった」等の声が聞かれる。これまで、発見しても「どこに繋いだら良いか分からない」、「自分の機関の専門性の範疇ではない」という様な理由で、支援に繋がらず孤立状態が続いていた様なケースが、コーディネート機能を持つCSWが関わることで、ネットワークで支援できる状態になった。①ケースの（再）発見から支援に結びつきやすくなった点、②個別課題は実は地域課題なのだと関わる者の気付きを促している点、③日頃から地域の福祉に携わる者同士が顔見知りとなって横の繋がりを大切にする視点が実感を持って育ち始めている点、等が効果として上げられる。CSWを配置している当法人にとっても、今地域はどの様な課題を抱え、施設・事業所に何を求めているのかがダイレクトに伝わり、地域と共に歩むために重要な窓口となっている。

今後の課題及び展開

セーフティネットワーク会議について、現在は個人情報扱う個別ケース検討と地域課題の検討を同じ会議の中で扱っているため、参加者が限られている。検討課題毎に開催を分ける等してより多くの関係者を巻き込んで行くことや、当事者の組織化の支援や地域で新たなサービスをつくり出す支援等、見えてきた地域課題について地域住民とともに積極的に取り組んで行くことが課題である。

また今年度から、これまで助成を行ってきた大阪府の厳しい財政状況により市町村の実情に応じ

での配置となったため、委託費が減額となった。地域福祉の拠点として専門性を発揮しながら真に地域の役に立てる法人となるために、この様な地域との窓口機能を保つ重要性を法人内外での共通認識を得ることに努め、長期的に資金面での安定を図っていくことも必要である。

主な経費や財源及び人員等

（年間あたり）

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
人件費	10,614,000円	茨木市	8,800,000円
事務費	1,700,000円	法人財源	3,514,000円
〈合計〉	12,314,000円	〈合計〉	12,314,000円

取り組みに関わった職員数 専任CSW 2名



「セーフティネットワーク会議で真剣に事例検討する様子」



「毎回20～30名の方が訪れる相談会の様子」